

2020年度・令和2年度

くずは青葉幼稚園

学校評価・自己評価



2021年4月

学校法人山口学園

P	標 題
2	はじめに 幼稚園（学校）評価の目的・学校評価に関する規定
3	学校評価並びに自己評価結果の公開
3	第1節. 本園の教育目標並びに 2020年度教育指針の設定について
3	第2節. 2020年度に重点的に取り組んだ教育内容
3	第3節. 自己評価項目の内容と達成及び取組の状況
4	自己評価 詳細
4	A 教育方針・指導計画
6	B 健康
7	C 人間環境 D 環境
8	E 言葉
9	F 表現
10	G 家庭連携 H安全管理

P	標 題
12	I 学級運営
13	J 業務全般 K 研修と研究
14	幼稚園運営 自己評価
14	1. 幼稚園教育の基本方針と組織 2. 保育内容の確認
15	3. 研修と研究 4. 幼稚園機能の拡大
16	5. 諸法規の遵守
17	6. リスク対応 7. 適正な事務処理
18	研修内容の詳細
21	第4節. 学校評価の総合的な評価結果
21	第5節. 今後取り組むべき課題
21	第6節. 財務状況
22	第7節. 学校関係者の評価

はじめに

本園は、昭和52年の開園以来、平成14年度まで各学期末並びに年度末に教員の反省・評価等を記録し、次年度への実践と反省を活かした教育活動の資料、また教員の指導上のポイントとして活用してきた。それは、実践に基づいた教務内容の充実を図るものと確認していたところである。その反省記録は、園全体の教育方針・並びに指針等に基づいての反省ではあるが、教員一人一人の視点の違いや、教員経験年数等により認識の差異が生じるため、共通理解を図ることが教務会議での課題となっていた。

そこで、平成15年度より「統一した評価基準」を設定し、その基準に基づき「自己評価」を実施し、教育水準の質の向上を図ってきた所である。続いて平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられた。これを受け平成21年度より「学校評価（並びに自己評価）」の公表（平成20年度版）を実施。以後、学校評価（並びに自己評価）の公表を継続しているところである。内 自己評価内容及び評価基準の改編を3回にわたり改訂した。本年度（2020年度版）においても「学校評価（自己評価）」を公開するものとする。（2021年4月公開）このことにより、私立幼稚園としての「学校評価」のねらい、併せて学校評価における指摘事項や意見を反映し、教育目標の達成できるよう努力研鑽に励むところである。

付記 幼稚園（学校）評価の目的と学校評価に関する規定

学校評価については、学校教育法第42条（幼稚園については、第28条により準用）及び学校教育法施行規則第66条～第68条（幼稚園については、第39条により準用）により以下の項目を公開する。

- ・教職員による自己評価を行い、その結果を公表。
- ・学校関係者による評価を行うとともにその結果を公表するよう努める。
- ・自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者（学校法人山口学園理事会）に報告。

学校評価並びに自己評価結果の公開

第1節. 本園の教育目標並びに2020年度教育指針の設定について

本園は、幼児の「心身の成長」を促し、子ども達相互の「ふれあい」を大切にした教育環境を調えることが何よりも大切と考えている。そして、幼児がいろいろな生活体験を積み重ねることができるよう指導と援助を行い、「明るく伸び伸びした幼児の育成」を目指すことが教育目標である。幼稚園集団生活の中で、幼児期の「躰」を充分に行い、情緒の安定を図り、そして将来の社会の担い手となるよう、自主性と協調性をもった豊かな「個性の創造」を育むことを目指し、努力研鑽に努めている。「幼児の心身の成長発達を助長し明るく伸び伸びとした集団生活を行う」「幼児期の幅広い諸経験を通して自主性を培い、そして体得して表現し、さらに集中してやり遂げる」という幼児教育を目指している。この趣旨並びに目的を建学の精神、「たくましく人間性ゆたかな子どもをめざす」の言葉で現している。

2020年度においては、それぞれの学年において、記載の教育目標（学年単位）を設定し、保育に努めた。また、その期ごと（1～3学期終了時）に学年の単位で評価会議、その内容を反省会議を実施し、次学期向けの課題を学年を越えて確認した。

【教育指針については年度毎に改編あり】

第2節. 2020年度に重点的に取り組んだ教育内容

建学の精神に基づく「教育方針のもと、2020年度・教育目標、教育指針を確立し、継続して「異年齢児による活動」の充実に努めた。

2020年3月より日本全国において、学校関係の感染拡大防止策として臨時休校・休園の措置となり本園においても6月までの休園措置を執った。休園措置解除後の開園に際して「新型コロナウイルス感染症拡大予防」の対応並びに対策をとり、園児の感染症予防策について文部科学省、大阪府教育庁発信のガイドライン等を参照し、本園独自のガイドラインを設定した。教育活動については「建学の精神」

「教育理念」のもと、コロナ禍においても充実した園児の教育活動が実践できるよう努めた。尚、感染症対応の指針（ガイドライン）は、初版から第9版に及び改定、修正を加え園児はもちろんのこと教職員、また来園者、保護者の感染予防策を行った。現在(2021.03)においてもそのガイドラインを基本に園児の保健衛生関係の基盤としていることを特記する。

第3節. 自己評価項目の内容と達成及び取り組みの状況

本園は、平成15年度より教員全員の「自己評価」を実施している。〔経緯については「はじめに」2頁掲載〕2020年度においても、継続して実施した。教員は、従前通り学期毎に評価項目に沿って自己点検・自己評価を行った。これは、教師自らが指導や子どもとの関わり、並びに子ども同士の関わりの援助について省みて、本園教育内容のより充実を目指す趣旨とした。

以下にその「自己評価項目・評価の観点・評価の達成と取組状況」を公開する。

尚、「教員 自己評価・詳細」と「園長・副園長・主任 自己評価・幼稚園運営の自己評価・幼稚園管理に関する自己評価」に分類してこれを公開する。

昨年度より前年度の評価も併記し、達成状況がより明確となるよう変更した。加えて、A・B 2段階評価としていたが、より厳しく評価するために3段階評価に変更した。また、「幼稚園運営の自己評価」においては、昨今の幼稚園を取り巻く状況を鑑み、新たな項目を加えた。

教員自己評価 詳細

分	教員 自己評価項目		園長・副園長・主任 自己評価項目		
	A	教育方針・指導計画	G	家庭連携	※ 幼稚園運営の自己評価
類	B	健康	H	安全管理	3段階にて自己評価 A 十分、達成されている B 達成されている C 十分ではない
	C	人間関係	I	学級運営	
	D	環境	J	業務全般	
	E	言葉	K	研修研究	
	F	表現			

A. 幼稚園教育の基本方針と指導計画・保育内容と記録、組織

NO 1 園の教育方針(教育目標)を理解しているか

		2019年度	2020年度
内 容	教育理念・基本方針が明文化されているか（学校評価、HP他、一般公開）十分、理解・認識している。	A	A
	園の教育方針（教育目標）を保護者や第三者に説明することができる。	A	A
	教師が各自、幼稚園教育要領を手元に置き指導計画作成の際や機会あるごとに目を通して	B	A
	いる。		
	教員として、本園の（教育方針）自らの学年における目標を理解している。	A	A
	幼稚園教育要領のそれぞれの領域における考え方が、指導計画に反映されて実践している	A	A
	建学の精神を理解し、実践している。	A	A
	H30年度に改訂される新幼稚園教育要領について研究・理解に努めている。	A	A
参考物	本園の教育理念・教育目標・保護者への説明プリント・HPによる公開内容。学校評価。		

NO 2 指導計画は、子どもの発達の姿に配慮したものになっているか

		2019年度	2020年度
内 容	幼児期の特徴を理解して、それぞれの時期における発達の流れを承知している。	A	A
	それぞれの子どもの興味・関心の赴くもの、また友だちとの関係について考慮している。	A	A
	担任だけでなく、それぞれの子どもを多面的にとらえる機会や話し合いの場が設けている	A	A
	一日の反省評価を記載し翌日に主任・園長・副園長の確認を受け自己反省として把握して	A	A
	いる		
	個々の子どもの発達の様子、生活の様子について指導要録以外にも記録があり、また子どもの発達状況、生活状況について話し合う機会が定期的又は必要に応じ設けられている。	B	A

NO 3 指導案(週日案)を重要なものと位置付けているか

		2019年度	2020年度
内 容	子どもの発達の姿にすべて配慮した指導計画・案となっている。	A	A
	指導計画、月案・週案などを確認し具体的なねらいを設定した日案を立てている。	A	A
	活動内容は発達の過程、子どもの興味・関心、生活の流れに応じているか確認している。	A	A
	計画は、ほかの教員にも知らせて、相互確認をしている。	A	A
	計画は、子どもの状況や天候などに配慮し、柔軟に実施されている。	A	A
	思い思いの活動と、クラスや全体での活動のバランスを考慮している。	A	A

NO 4 教職員間で子どもの共通理解・発達の確認がなされているか

2019年度 2020年度

内 容	園長を中心に教職員間で子どもの様子や変化についての情報交換を行い、情報の共有を行っている。	A	A
	特に配慮が必要な子どもについては、個別の話し合い（放課後ミーティング以外）が行われている。	A	A
	情報共有・意思統一は重要であるが、話に夢中になり過ぎ、業務に支障をきたしていないか。	A	A
	園長を中心に教職員間で連携をし、その子の発達援助を学年として、若しくは全員で行っている。	A	A
	特に配慮が必要な子どもについては、家庭での状況を把握すると共に、家庭に園での様子などを伝えている。	A	A
	教育課程にもとづいて、子どもの発達の状況を把握している。	A	A
参考物	子どもの育ちの記録		

NO 5 記録の点検・確認がなされているか

2019年度 2020年度

内 容	園日誌、幼児個人記録、行事の記録などの記入状況が点検されている。	A	B
	保育の記録や評価・反省は一定の様式・記入の仕方に従い、記載されている。	A	A
	記録は適切に保管・整理されている。	A	A
	保育の振り返りや、次回の計画の際に記録を活用している。	A	B
	記録・企画書・その他帳票類を上手に活用している。	A	A
参考物	園日誌、幼児個人記録、反省会議事録、企画書、行事の記録など		

NO 6 教職員間で諸会議が適切になされているか

2019年度 2020年度

内 容	連絡会議や職員会議などが、経常的に行われているが（放課後ミーティング）、確実性を以て意識している。	A	A
	直近の行事や予定など園の計画は、職員会議で周知徹底し、資料によって、わかるように整理している。	A	A
	会議録・記録簿等 自らが整理してファイリングしている。（個人）	A	A
	会議の際、意見を積極的に出している。	B	A
	子どもの発達に合わせた園環境の見直しについて、意識している。	A	A
参考物	会議録		

NO 7 子どもの様子を評価・反省し保育に生かしているか

2019年度 2020年度

内 容	その日の成長の様子や、変化が見られた子どもの様子を記録したり、他教員と話し合っている。	A	A
	その日のねらいが達成できたか評価・反省している。	A	A
	反省を生かし、教材研究を行っている。	A	A
	翌日や週の保育活動や環境構成に生かしている。	A	A
	反省、評価の方法が、どのように保育に生かされたか、確認している。	A	A



NO 8 日常の保育が適切に記録し活用されているか

2019年度 2020年度

内 容	指導案や幼児個人記録には、保育内容や出来事が記録されている。	A	A
	個人の記録は、決まった様式・観点で継続的に行っている。	A	A
	個人の記録は整理し、活用している。	A	A
	指導要録は進級、進級時に引き継ぎがなされている。	A	A
	個人の記録の取り扱い、および保管については十分に注意している。	A	A
参考物	幼児個人記録簿		

NO 9 組織的な仕事が行なわれているか

2019年度 2020年度

内 容	各教職員の役割の分掌と責任が明文化されていてしっかり意識している。	A	A
	職務の実施内容・検討事項などが記録・整理され、活用している。	A	A
	日ごろから、円滑に組織的な仕事が行われるよう改善に努めている。	A	A
	年齢・経験の隔たりなく話し合っている。	A	A
	職員間の仲間意識が「馴れ合い」をうみ、業務中に仕事という意識を薄れさせ、自分中心・自分たち中心の行動をとってしまっていないか。	A	A
	報告・連絡・相談が確実に行われている。	B	A
	自分より経験の少ない教員に対し模範となれている。	A	A
参考物	教職員・園務分掌表		

B. 健康

NO10 子どもがのびのびと行動し、充実感が味わえるよう工夫しているか

2019年度 2020年度

内 容	子どもが安定感を持って行動できるよう教師との信頼関係が築けている。	A	A
	戸外・室内において子どもが自分なりの遊びを見つけて楽しめる配慮や工夫がされている	A	A
	指導案に子どもが伸び伸びと遊びこめる時間が設けられている。	A	A

NO11 子どもが進んで戸外での活動を楽しむ配慮や工夫がされているか

2019年度 2020年度

内 容	子どもの目が自然と戸外に向くように自然物を豊かにしたり、固定遊具の配置に留意して室内から戸外への動線が連続するようにしている。	A	A
	教師がモデルとなって戸外で遊ぶ面白さを伝えるようにしている。	A	A
	子どもが戸外で遊ぶ時間を十分確保している。	A	A
	戸外遊び時、傍観するのではなく共に遊び、教師がモデルとなって戸外で遊ぶ面白さを伝えるようにしている。	A	A

NO12 子どもが運動的な活動に限らず、様々な遊びの中で十分体を動かす事ができるよう援助や働きかけを行っている

2019年度 2020年度

内 容	子どもが今、どんな遊びに興味・関心を持ち活動意欲が高まっているかを理解している	A	A
	子どもの興味・関心を喚起するような環境構成をつくっている。	A	A
	日々の保育がある特定の活動に偏る事の無いように計画している。	A	A

NO13 健康や安全な生活に対して必要な習慣や態度を身につけていけるよう工夫しているか

2019年度 2020年度

内 容	遊びや食事の時間等、子どもたちが園生活のリズムを身につけていける指導を行っている	A	A
	園における生活の仕方を知り、子どもたちが自分で生活や遊びの場を整えていける指導を行っている。	A	A
	危険な場所や遊びに対して配慮や指導を行っている。	A	A

C, 人間関係

N014 子どもが自分で行動することの充実感を味わえるような援助を行っているか

		2019年度	2020年度
内 容	子どもが不安になった時に、いつでも応じられるように常に教師が身近にいる。	A	A
	集団の中でも個々の子どもの気持ちや意図を汲み取る配慮をしている。	A	A
	子どもたちが自分で考え、自分で行動する機会を積極的に設けたり、それに対する援助を行っている。	A	A

N015 自分の保育の上で相手の思いや気持ちに気づいていけるような援助や機会を設けているか

		2019年度	2020年度
内 容	トラブルの場面では、危険のないよう配慮しながら子どもたち同士で解決できるように援助している。	B	A
	友達に自分の思いを伝えようとしている子どもに対して見守り必要な援助をしている。	A	A
	教師や友だち以外の色々な人を通して様々な事を知ったり考える機会を設けている。	B	B
	異年齢児との交流の機会が設けられるよう常時意識している。	A	A

N016 園生活における望ましい習慣や態度を身につけるための指導を行ったり機会を設けているか

		2019年度	2020年度
内 容	子どもたちが社会的ルールや善悪の判断を身につけていくよう配慮している。	A	A
	子ども達にとって模範となるような態度・習慣を行なっている。	A	A
	当番活動を日常生活の中でしっかり行っている。	A	A
	異年齢児との交流を日頃より意識して行っている。	A	A
	友だちと協力したり、一緒に行う活動の機会を設けている。	A	A
	子どもが他者の気持ちに気づき、時には自分の要求を抑えるような援助や指導を行っている。	A	A

N017 年度教育指針「異年齢保育」について園児と十分にかかわり、ねらいの達成に努めたか

		2019年度	2020年度
内 容	本園教育課程を理解、認識し学級の園児以外にも多く関わった。	A	A
	異年齢の存在を認識することから段階的に園児に助言、指導した。	A	A

D. 環境

N018 身近な環境に親しみ、様々な事象に興味や関心が持てるように工夫がされているか。

		2019年度	2020年度
内 容	園内の自然環境を整備し、活用している。	A	A
	子どもが、（動）植物に接する機会をつくっている。	A	A
	季節感のある素材を保育に活用したり季節にあわせた室内環境を工夫している。	A	A
	子どもが光や風を感じられる工夫やそれらを保育に取り入れられている。	C	B

N019 幼稚園全体の環境構成に十分配慮しているか

		2019年度	2020年度
内 容	自分の保育室のみならずトイレ、遊戯室など全体の環境構成に留意している。	A	A
	園門付近や廊下など安全管理を含め子どもの生活の場として意識している。	A	A
	掃除や整理整頓に心がけている。	B	A

NO20 子どもが自発的に活動したり遊べる環境が整備されているか

		2019年度	2020年度
内 容	子どもの発達段階に即した玩具や遊具、教具を用意し、子ども達に活用を促している。	A	A
	玩具や遊具、教具が十分に事前に用意されている。	A	A
	子どもが素材や用具などを自由に自分で選んで遊べるように工夫している。	B	A
	子どもが、遊びこむ時間を確保している。	A	A

NO21 子どもの遊びや活動が発展するヒントとなる工夫や配慮がされているか

		2019年度	2020年度
内 容	子どもの遊びや活動の広がりや臨機応変に対処するよう心がけている。	A	A
	その日の子どもの活動の様子を振り返りながら翌日若しくは今後の環境を整えている。	A	A

NO22 保育室(クラス担任の保育室)の環境に常々、留意していたか。

		2019年度	2020年度
内 容	活動の場としての保育室を常々「清潔」「整理整頓」「危険防止安全対策」に留意している。	A	A
	保育室内の備品や用具を適切に扱ったか。そのうえで破損等した場合、そのままにせず園長・副園長に報告し、適切に対処したか。	A	A

NO23 日常保育のための環境構成を適切に行っているか

		2019年度	2020年度
内 容	前日までの子どもの様子に留意し、幼児の興味・関心やあそびの連続性に配慮した環境構成を行っている。	A	A
	週や一日を通し、バランスよく多様な活動ができるように、保育の構成を心がけている	A	A
	子どもが自発的にかかわれる環境の構成に努めている。	A	A
	異年齢の子どもが自然に交流できるような環境の構成をしている。	A	A
	園長を中心に職員全体で連携し、環境の構成を行っている。	A	A

E. 言葉

NO24 子どもが自分の気持ちを自分なりに表現したとき、それを受け止めているか

		2019年度	2020年度
内 容	子どもの問いかけや話かけを後回しにせず、その場で対応している。	A	A
	自分を表現する力が十分でない子どもに対しては表情やスキンシップなどを通して心情を読み取っている。	A	A
	毎日または定期的に教師と子どもたちとの会話の時間を設けている。	A	A
	子ども達にとって模範となる言葉使いや話し方が出来ている。	B	A
	子どもにわかりやすい言葉でおだやかに話している。	A	A

NO25 子ども達自身が友だち同士で話し合えるように工夫されているか

		2019年度	2020年度
内 容	グループ活動や当番活動など子どもたちが自主的に進められるような機会を設けている	A	A
	戸外遊びや自由遊びなどの時間を十分に設けている。	A	A
	子どもたちで解決できそうな場合は、教師が答えを出してしまわないよう見守る姿勢を心がけている。	A	A

NO26 生活や遊びの中から出てきた言葉やアイデアが保育に生かされているか

		2019年度	2020年度
内 容	子どもたちの話の中から出てきた疑問や発見を受けとめクラスで話し合ったり、実際に確かめたりしている。	A	A
	子どもたちの発想や思いをもとにして<例：描画・お話づくり・劇遊び・リズム表現等などの活動につなげている。	A	A

N027 子ども自身が挨拶の意味を知り、進んで行えているか

		2019年度	2020年度
内 容	教師が率先して挨拶をし、親しい雰囲気をつくっている。	B	A
	挨拶の大切さ、意味を子どもたちに伝えている。	A	A

N028 絵本や紙芝居、素話などを時間や内容を考慮し、工夫して積極的に取り入れているか

		2019年度	2020年度
内 容	子どもたちの興味のあるものに関連性がある絵本や紙芝居を用意している。	A	A
	行事や季節、またそれぞれの学年に応じたものを選んでいく。	A	A
	絵本や紙芝居は事前に内容を把握し、子どもに伝わるように読み聞かせている。	A	A
	落ちついた、ゆったりした時間の中で、1日に一度は（若しくは数日に一度）必ず絵本や紙芝居、素話をする機会を設けている。	A	A

F. 表現

N029 子どもの表現しようとする意欲を受け止め、また子どもが様々な表現を楽しむ事ができるように配慮しているか

		2019年度	2020年度
内 容	子どもが生活の中で感じた美しいものや心を動かす出来事を教師が受け止め共感している。	A	A
	子どもが自分なりの思いで描いたり、イメージしたものをつくろうとしている気持ちを受け止め共感している。	A	A
	子どもたちの様々なイメージの表現に必要な素材や用具を工夫し、準備している。	A	A

N030 子どもが生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、楽しんだりできるように工夫されているか

		2019年度	2020年度
内 容	子どもの興味や関心を引き出すような音楽や楽器を保育に取り入れている。	A	A
	保育室など子どもが見られる所に絵画等を展示している。	A	B
	子どもに刺激となるさまざまな素材や保育教材が準備されている。	A	A

N031 子どもが自由に音や動きで表現する機会が設けられているか

		2019年度	2020年度
内 容	子どもが様々な楽器に触れ、楽しむ保育をしている。	A	B
	教師が先回りして指示したり、性急に技能的なことを求めたりせず、子どもに自由感を持って活動させている。	A	A
	教師も子どもと一緒に表現する事が楽しいという姿勢が持っている。	A	A
	身体を使った様々な表現あそびが取り入れられている。	A	A
	子どもが日常的に歌をうたう機会が設けられている。	A	B

N032 子どもの作品が工夫して飾られる等、丁寧に扱われているか

		2019年度	2020年度
内 容	一つ一つの作品について、教師がその面白さや大切さを理解するように努めている。	A	A
	子どもの作品に対する思いや、その作品に関する話を受け止め記録している。	A	A

G. 家庭連携

N033 子どもの様子や育ち・保育内容等を保護者にわかりやすく伝えるよう工夫しているか

		2019年度	2020年度
内 容	日常の様子などは、必要に応じて電話連絡している。	A	A
	けがや事故が起きた時は状況や原因などを細かく説明している。	A	A
	クラスや子どもの様子・成長などを「クラスだより」で確実に伝えている。	—	—
	保育参観や懇談会において保育内容をより理解してもらえようようにしている。	A	B

N034 保護者の質問や意見を聞くなど情報交換をすることによって、幼稚園と家庭が子どもの望ましい発達を促すための生活について考えていけるような連携がとれているか。

		2019年度	2020年度
内 容	保護者の相談や質問には、丁寧に対応している。	A	A
	保護者と個別面談や電話連絡などを通じ定期的に子ども一人ひとりの共通理解に努めている。	A	A
	園の様子や子どもの発達理解のための情報提供に努めている。	A	A
	個別の課題や目標に応じ、保護者と連携して達成に努めている。	A	A
	子どもの成長や変化を保護者に伝え、喜びを共有するよう努めている。	A	A
	個人懇談で家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えるなど情報交換をしている。	A	A
	子どものことで「家庭（保護者）への連絡」を怠ったことはない。	A	A
	知り得た家庭事情や子どもに関する情報を他人に漏らさないようにしている。	A	A
	保護者の家庭状況や変化を把握している。	A	A
	特に配慮が必要な家庭には、状況に応じた対応がなされている。	A	A
	電話連絡などで、こまめな相互連絡を心がけている。	A	A
	保護者が理解しやすい、日ごろからの関係・環境を作っている。	A	A
	保護者理解と個別対応がなされている。	A	A
教職員同士での保護者理解のための情報交換・共有をしている。	A	A	

N035 苦情解決のための取り組みを行っているか

		2019年度	2020年度
内 容	苦情や質問の苦情解決のための仕組みを工夫している。	A	A
	教職員が聞いた保護者の苦情や質問などは、主任や園長・副園長に確実に伝えている。	A	A
	苦情の内容と、その解決方法はすべての保護者に情報として提供されている。	A	A
	苦情については、職員が保育を改善するための前向きな意見としてとらえている。	A	A

H. 安全管理

N036 室内や園庭の安全に対して、定期的に点検・改善を行っているか。

		2019年度	2020年度
内 容	遊具・設備備品・保育室内・園庭等戸外・建物共有空間などに関する安全点検チェックリストが作成されていて運用している。	A	A
	安全管理担当者（火元責任、倉庫点検など）を決めて職務を遂行している。	A	A
	事故や怪我の報告書などがあり、記載し、それをもとに再発防止に努めている。	A	A

NO37 緊急事態に対して敏速に対応できるようにしているか

		2019年度	2020年度
内 容	緊急時行動に関するマニュアルを周知徹底、理解把握している。	A	A
	通報先（警察など外部）にすぐに連絡ができるようにしている。	A	A
	教師間への連絡連携が取れる体制になっている。	A	A
	防御スプレー、さすまた等、すぐに使えるようにしている。	A	A
	消火器の位置を把握し、使い方を理解している。	A	A

NO38 薬品の取り扱いに十分配慮しているか

		2019年度	2020年度
内 容	薬を飲ませる場合は、保護者の依頼を受け確実に与薬している。	A	A
	救急医薬品の置き場所、並びにその内容は確実に把握している。	A	A
	清掃用などの薬品は、確実に保管するように配慮している。	A	A
	子どものアレルギー疾患などを把握していて、他の教師にも周知されている。	A	A

NO39 園庭は常に整備されていて、室内は清潔で整理整頓が行き届いているか

		2019年度	2020年度
内 容	衛生管理について、しっかり意識して実行している。	A	A
	遊具や玩具が使いやすいように工夫している。	A	A
	常に園児の「安全」に気をくばっていたか。通園バスの進入の際や遊具の活用の際等。	A	A

NO40 安全・衛生点検に心がけているか

		2019年度	2020年度
内 容	自らの健康管理に留意し、健康な状態で過ごせるよう留意している。	A	A
	日ごろから安全・衛生意識の確認を行っている。	A	A
	定期的に、安全・衛生点検を実施している。	A	A
	点検リストが準備されていて確実に対処している。	A	A
	環境構成の際に、安全・衛生点検の視点を組み込んでいる。	A	A
	行政などからの情報を把握し（光化学スモック情報、PM2.5情報等）、教職員で情報を共有し、安全・衛生点検に役立っている。	A	A

NO41 園児の受け取り、引き渡しに関する安全の確認がなされているか

		2019年度	2020年度
内 容	園児の受け取り、引き渡しの手順が定められている通り対応している。	A	A
	教職員間で手順や方法について、定期的に確認し、保護者にも周知している。	A	A
	父母でない者への引き渡しのルールがあり、周知されている。	A	A
	子どものその日の健康状況などを見て、確認している。	A	A
	子どもの受け取り、引き渡し場所（バス通園・直接園）の安全を確実に確認している	A	A

NO42 施設・設備、遊具に対する安全対策ができているか

		2019年度	2020年度
内 容	職員ひとりひとりに、危険・安全について意識を高めている。	A	A
	点検リスト、点検簿があり、定期的に記録している。	A	A
	複数の教員により点検を確実に実施している。	A	A
	不備が見つかった場合、緊急度を考慮して対応している。	A	A
参考物	点検記録簿・マニュアル		

NO43 不審者への対応がなされているか

		2019年度	2020年度
内 容	日常から子どもへの、啓蒙活動をしている。	A	A
	子ども・職員に、防犯教育を行っている。	A	A
	常日頃、防犯カメラを意識したり入門者が入門許可証を所持しているか等確認する等、安全対策を自分のこととして理解し行動している。	A	A
参考物	不審者対応マニュアル 監視カメラ 不審者対応用防具類 緊急連絡の設備方法		

NO44 事故予防および事故発生時の対応手段が整っているか

		2019年度	2020年度
内 容	事故の危険がある場所をチェックし、改善に努めている。	A	A
	事故発生時の対応マニュアルが作成されていて、保護者に周知されている。	A	A
	教職員間で事故発生時の対応の仕方や分担の話し合いがなされ、連携のとれる体制が作られている。	A	A
	保護者へ、事故の経緯・対応や改善策が説明されている。	A	A
	事故対応後は、速やかに問題点を明らかにし、改善策を講じている。	A	A
参考物	事故記録簿・報告書		

NO45 弁当・給食における安全衛生対策がなされているか

		2019年度	2020年度
内 容	弁当・給食の保管場所に留意し、適切に管理している。	A	A
	子どもの食事に注意を払い、喫食状況を把握している。	A	A
	保護者にバランスのとれたメニューや、食育についての情報提供を行っている。	A	A
	子どものアレルギー状況を把握し、適切に対応している。	A	A

I. 学級運営

NO46 保育室は整理・整頓が行き届き、安全にも配慮した環境にしているか

		2019年度	2020年度
内 容	掃き掃除や拭き掃除が行き届いていて、いつも清潔な環境で子どもを迎えている。	A	A
	子どもの動線なども考え、安全に配慮した環境になっている。	A	A

NO47 個々の子どもの心身の状況を把握したり、配慮しながら保育をしているか

		2019年度	2020年度
内 容	登園後や降園前に視診をして、子どもの心身の状況を把握している。	A	A
	子どもの内面を見ることを心がけながら、保育をしている。	A	A
	一人ひとりの子どもが、落ち着いて遊んだり生活できる場になるように工夫している	A	A

NO48 子どもとの信頼関係の確保に努めているか

		2019年度	2020年度
内 容	クラスの子どもには、ひとりひとりに対して毎日言葉がけをしている。	A	A
	園全体の子どもの名前を覚えている。	A	A
	スキンシップやあそびを通して、子どもとの関係を深めている。	A	A
	子どもへの言葉遣いや対応が適切であるか、教職員間で確認している。	A	A
	子どもの自主性を尊重し、好ましい人間関係を作っている。	B	A

NO49 日常保育のための環境構成を適切に行っているか

		2019年度	2020年度
内 容	前日までの子どもの様子に留意し、幼児の興味・関心やあそびの連続性に配慮した環境構成を行っている。	A	A
	週や一日を通し、バランスよく多様な活動ができるように、保育の構成を心がけている。	A	A
	子どもが自発的にかかわれる環境の構成に努めている。	B	A
	異年齢の子どもが自然に交流できるような環境の構成をしている。	A	A
	職員全体で連携し、環境の構成を行っている。	A	A

J. 業務全般

NO50 社会人としての最低限の職場のマナー、礼儀は自分でできていると思うか

		2019年度	2020年度
内 容	挨拶、笑顔、電話対応、言葉づかい。態度、マナー、行儀。	B	A
	職員間での約束事、業務として教員会議で決定されたことを貴女は遵守しているか。	A	A
	期限や取り決めの時間を遵守しているか。	A	A
	報告の義務は怠ったことはないか。	A	A
	園務分掌・行事の担当者それぞれと十分に協議を行い「企画」したか。先輩職員の説明や同輩、後輩の職員の意見など活発な取り組みの姿勢があったか。	A	A
	会議での発言、発表、説明などは十分に行えたか。	B	B
	広い視野にたって「園児」「業務」を観ているか。	A	A

NO51 日常業務について

		2019年度	2020年度
内 容	園からの配布物(手紙等)は、決められた期日に配布している。また、その内容を熟知し理解している。	A	B
	幼稚園の単なる一担任ではなく、幼稚園を代表する一人として意識し、業務についている。	A	A
	メリハリを持って業務を行っている。	B	A
	お歩きの降園時に音楽をかけたり門を開ける等、複数教諭で業務にあたる際、先輩後輩関係なく他教諭任せにせず自ら率先して行動している。	A	A
	経費節減のため、無駄な教材使用やコピー節減に意識して努めている。	C	B
	園務分掌、行事担当、その他の役割分担をしつかり意識し、消化し業務を遂行している。	A	A

K. 研修と研究

NO52 園内研修等で自己の課題や園全体の課題について定期的に見直しや評価をしあい、保育の質の向上に努めているか

		2019年度	2020年度
内 容	主任他、他教員とコミュニケーションをよくとり、他の教師の助言や保育技術を参考にしている。	A	A
	研修で学んだことが教職員に報告され、保育に生かされている。	A	A
	保育について教職員間で話し合ったり、指導や協力体制が確立されている。	A	A
	自己の課題や園全体の課題について定期的に見直しや評価を行い、保育の質の向上に努めている。	A	A

NO53 専門書や雑誌を読む等、保育技術を高めるための努力をし、習得した事を実際の保育に生かしているか

		2019年度	2020年度
内 容	定期的に購読している教育書や保育雑誌がある。	B	B
	公開保育に積極的に参加したり他の教師の保育の様子を見学するよう努めている。	A	B
	夏期休暇等を利用して研修・教材研究を行っている。	B	B

NO54 教材の研究、題材の研究をその活動ごとにまたは、定期的に行ったか。

		2019年度	2020年度
内 容	定期的に「教材」または「活動のための題材や素材など」についてその活用内容について研究した。	A	A
	「教材研究」を日頃より留意し、保育に生かしている。	A	A

NO55 食育について、どのように取り組んでいるか

		2019年度	2020年度
内 容	園として食育に取り組み、教員して実践している。	A	A
	教員間で食育について話し合い、共通理解を図っている。	A	A
	折にふれ、保護者に食育の方針について説明をしている。	B	A

幼稚園運営の自己評価

幼稚園教育の基本方針と組織

1-1 園長・副園長・主任教諭は、リーダーとしての責任を果たしているか (前年度評価 A)	
内 容	園長・副園長・主任は、園運営に関するビジョンの提示やさまざまな情報収集と提供を行っている。
	園長・副園長・主任は、園運営の中心となり、教職員と協力して問題解決に努めている。
	積極的に研修会に参加し、自己研鑽を図り、相談力・助言力・説明力・調整力・リーダーシップなどの向上に努めている。
	折にふれ、園長の保育観や考え方を教職員や保護者に伝えている。
	教職員と一緒に問題解決について、適切な判断が行われているか点検・評価を行っている。
備考	園長のビジョンを明文化し伝える物

1-2 地域交流と貢献を心がけているか (前年度評価 B)	
内 容	教職員は地域交流や貢献の大切さを理解している。
	園の行事などに積極的に地域の人の参加を呼びかけている。
	日常において地域の人との信頼関係を積み重ねている。
	積極的に地域の文化・自然を活用して保育を実践している。

1-3 適切な「働き方改革」が実施されているか (前年度評価 A)	
内 容	「働き方改革」の主旨を理解している。
	言葉がけだけでなく、手段や方法を提示し「働き方改革」を推進している。
	他園や他業種から学んだり情報収集を行い、活かしている。

保育内容の確認 [幼稚園全体]

2-1 環境問題への配慮がなされているか (前年度評価 B)	
内 容	節水、節電に努めている。
	保育の中で環境教育を行っている。
	自然体験を通して、環境の大切さを知らせたり、深める活動を取り入れている。
	園での取り組みを保護者に知らせ、理解してもらっている。
	地域との連携を意識して行っている。

保育内容の確認 [教員]

2-2 行事の配置は適正か (前年度評価 A)	
内 容	年間行事計画を作成している。
	その年の子どもの実態に合わせ、行事を編成している。
	個々の行事について教職員と十分に話し合い、必要に応じ見直しを行っている。
	日本の文化や季節感のある行事を取り入れ、子どもに伝えている。
	保護者や地域の人たちとの関係作りに配慮している。
備考	年間行事計画

研修と研究

3-1 人材の計画的な確保、育成をしているか (前年度評価 B)	
内 容 A	保育に必要な教職員数を計画的に確保している。
	園外の研修の参加を促進し、また園内の研修の実施に努めている。
	社会人としての良識とマナーを含めた研修を実施している。
	研修担当をしっかりと決め、責任をもって新人の育成にあたっている。
	非常勤職員にも、園の方針について研修を行っている。

3-2 園外研修が適切に行われているか (前年度評価 A)	
内 容 B	園外研修に出やすい雰囲気を作り、積極的な参加を促している。
	参加者は、目的意識をもって事前の準備をし、参加するようにしている。
	研修で学んだことが教職員に報告され、保育に生かされている。
	年間を通して、計画的に園外研修を行っている。
	一年間を反省し、次年度の計画を立てている。

3-3 特別支援に対応しているか (前年度評価 A)	
内 容 A	支援を必要とする子どもの受け入れの必要性を共通理解している。
	教職員は、日ごろから支援を必要とする子どもに関する一般的理解を深めるよう研修会に参加している。
	個々の子どもの理解が進むよう、保護者、教職員間で必要な情報提供を行い、連携・協力を図っている。
	医療機関や関係機関と連携をとり、必要な情報を全教職員が共有している。
	支援が必要な子どもに沿った環境整備がなされている。

3-4 いじめ・差別・性差別などの対応が適切に行われているか (前年度評価 A)	
内 容 A	いじめ・差別・性差別などについて教職員の共通理解、情報交換を行っている。
	いじめ・差別・性差別などの課題について、保育の中での取り扱いに留意している。
	子どもや保護者にもわかりやすい説明を行っている。
	研修会に参加し、専門的な知識を得るよう努力している。
	保育のなかでも、子どもたちにわかりやすく説明をして理解をしてもらっている。

3-5 幼小連携に努めているか (前年度評価 A)	
内 容 B	幼小の連携の必要性を理解している。
	発達や学びの連続性を理解し、スムーズな接続に向けて教職員の研修を図っている。
	小学校との情報交換や連携に努めている。
	子どもたちに進学の期待や心構えなどを話す機会を設けている。
	保護者に対して、進学の心構えや、先輩の体験談などを伝える機会を設けている。

幼稚園機能の拡大

4-1 地域の子育て支援に対応しているか (前年度評価 B)	
内 容 B	幼児期の地域の教育センターとしての役割や、子育て支援の意義を理解し実施している。
	子育て支援について、教職員の協力体制や情報交換を心がけている。
	子育て情報の発信や、地域の施設・機関と連携した子育て支援を心がけている。
	未就園児への対応や、園庭開放を行っている。
	安心して悩みを相談できる、子育て相談の場を提供している。
備考	告知情報媒体など

4-2 幼児教育無償化に対応しているか (前年度評価 A)	
内 容 A	幼児教育無償化実施前より、保護者説明をしっかりと行っている。
	事務手続き等、遅滞なく実施できている。
	職員間で情報共有を行い、園全体として幼児教育無償化に取り組んでいる。

4-3 未就園児への対応を行っているか (前年度評価 A)	
内 容	計画、案内が地域に知らされている。
	意義を理解し、実施している。
	目的や使命を教職員に伝えている。
	子どもの状況に応じた対応を心がけ、保護者ニーズを把握している。
	子ども同士に限らず、保護者同士の交流にも心がけている。
備考	告知情報媒体など

4-4 預かり保育を適正に実施しているか (前年度評価 A)	
内 容	子どもの一日の生活を考慮し、施設や設備などの環境を整えている。
	子どもが長時間過ごすことができるよう、生活リズムに配慮し、保育内容や方法を工夫している。
	担当者とはほかの教職員の協力体制や、情報交換を心がけている。
	預かり保育を利用する保護者との緊密な連携を心がけている。
	正規の教育時間内の活動に、支障のない範囲で行っている。
備考	預かり保育日誌 園案内

4-5 実習生の研修の場の提供を適切に行っているか (前年度評価 A)	
内 容	実習生の受け入れ体制を整備している。
	実習生受け入れの意義を、教職員間で共通理解している。
	実習生には、事前研修、オリエンテーションなどを行っている。
	幼児教育の大切さや、園の方針・園児とのかかわり方の基本などを知らせている。
	養成校と連携し、情報交換を心がけている。
備考	研修リスト 実習生の保育日誌 実習生心得

4-6 情報公開を適正に行っているか (前年度評価 A)	
内 容	私学法や設置基準で定められた園の情報を、わかりやすく情報公開するように努めている。
	ホームページなどの電子媒体や掲示板、手紙などを利用し、広く園の方針・活動を地域に知らせている。
	園便りの定期的な発行など、保護者を対象として情報の提供を行っている。
	保護者や地域の人などに、園の活動や地域における幼児教育のセンターとしての活動についての情報公開をしている。
	自己点検・自己評価の結果についての情報公開を行っている。

諸法規の遵守

5-1 健康診断を実施しているか (前年度評価 A)	
内 容	子どもの健康診断を定期的実施している。
	子どもの健康診断の結果は、保護者に知らせている。
	診断の上、気になる子がいたら、園医・教職員・家庭と連携を図っている。
	健康診断を子どもの健康な発達のために生かしている。
	教職員の健康診断を毎年実施している。子どもの健康の記録・教職員の健康診断の記録

5-2 労働基準法に対応しているか (前年度評価 A)	
内 容	法改正に応じて、就業規則および関連協定が整備され、遵守されている。
	新しい規則に対応した就業規則および関連協定の届出がなされている。
	労働協定・就業規則・給与規定、旅費規程、履歴書、雇用契約書、成績証明書、免許証の写しなどが整理保管されている。
	教職員が必要な書類を閲覧でき、また内容について周知する機会を設けている。
	常に職員の労働環境について配慮している。
備考	就業規則 諸規定 労働基準局への届出 教職員履歴書つづり 勤務時間管理

5-3 道路交通法に対応しているか (前年度評価 A)	
内 容	園車両や教職員車両の任意保険加入状況および更新時の内容を確認している。
	定期的に安全教育や、話し合いを実施している。
	定期的に車両の整備状況を確認している。
	事故の際の対応手順は、定められたマニュアルがある。
	園周辺の交通安全には、特に配慮している。
備考	バス運行マニュアル・運行記録 地図 安全運行の保護者への周知 保険契約

5-4 虐待防止などの対策、対応がなされているか (前年度評価 A)	
内容 A	虐待の発見や防止のための研修や話し合いが行われ、教職員の共通理解がなされている。
	発見や疑念をもった場合の対応方法のマニュアルがある。
	関連施設との連携を図っている。
	保護者にも虐待防止についての説明がなされている。
	普段から子どもの様子や変化に注意を払っている。
備考	視診・対応マニュアル 虐待防止に関する話し合い記録

リスク対応

6-1 任意保険の確認を行っているか (前年度評価 A)	
内容 A	賠償、傷害、火災、自動車保険に加入している。
	更新時には、賠償内容の説明を受け、補償額を確認をしている。
	教職員、保護者に保険内容を周知している。
	園児ひとりひとりが傷害保険に加入している。
	常に園の抱えているリスクをイメージして、保険を考えている。

6-2 社会的事件からの学習、対応がなされているか (前年度評価 A)	
内容 A	子どもに関連する事件・事故の情報収集を全教職員が行っている。
	収集した情報にもとづき、教職員間で問題を把握、共有し、対応策を講じている。
	関連情報や対応策を保護者に説明している。
	地域や保護者との連携を図っている。
	子どもたちに安全教育を施している。

6-3 コンピューター・インターネットの安全管理がなされているか (前年度評価 A)	
内容 A	コンピューターの故障、ウィルス対応のためのバックアップ対策がしてある。
	コンピューターの盗難、廃棄の際の情報管理がなされている。
	ホームページの管理は定期的に決められた人がチェックしている。
	コンピューター本体、重要なデータなどは、厳重に管理している。
	個人情報ファイルには、必ずパスワードを設定している。
備考	バックアップ ウィルス対応ソフト 更新 情報流失

適正な事務処理

7-1 園の重要書類の管理がなされているか (前年度評価 A)	
内容 A	責任者を決め、重要書類の保管、管理が正しく行われている。
	災害などの、緊急持ち出しが可能なように整理されている。
	書類は定期的に確認され、決められた手段で処分されている。
	重要書類は、施錠できる場所に保管されている。
	持ち出しが必要な場合、持ち出しのルールや手順が決められている。

7-2 必要な書類や、公文書などの処理が適正に行われているか (前年度評価 A)	
内容 A	公文書の受信・発信簿が整理されている。
	公文書受付時の処理担当者が決められている。
	必要な公文書は教職員に周知されている。
	必要な書類が整備され、正しく更新されている。
	諸規定・保育計画やマニュアルなどは定められた場所に保管されている。
備考	公文書 園則・寄付行為・就業規則・給与規定・旅費規程・経理規定・自衛消防計画・車両運行規定

7-3 園の情報公開が適正に行われているか (前年度評価 A)	
内容 A	保護者などから情報公開請求があった場合、法に定められた内容に従い公開している。
	保護者などから情報公開請求があった場合の、手続きや対応が決まっている。
	公開された情報が、わかりやすい情報がどうか保護者に確認している。
	情報公開すべき書類などについては、常に整理されている。
	責任者を決め、保管、管理が正しく行われている。
備考	情報公開のルール、財産目録、貸借対照表、収支計算書および事業報告書など (私学法)

研修内容詳細目 関連項目 / K. 研修と研究 

下記の 園内研修を実施。また園外研修に参加

(1) 園内研修・研究保育

	研修日時	研修内容	研修者
1	2020/4/7	体育指導研修	全 教 諭
2	2020/5/29	応急手当WEB研修	全 教 諭

(2) 園外研修・研究保育

	研修日時	研修内容	研修者
※	休園期間中	教職員支援機構映像研修(次ページ詳細記載)	—
1	2020/4/21	令和2年度 大阪府幼稚園新規採用教員研修	教諭 大橋 桃子
2	2020/6/4	一般社団法人大阪府私立幼稚園連盟 オンライン研修「保育再開に向けてのメンタルケア～子ども編～」	副園長 山口哲也
3	2020/6/5	一般社団法人大阪府私立幼稚園連盟 オンライン研修「保育再開に向けてのメンタルケア～大人編～」	副園長 山口哲也
4	2020/6/10	一般社団法人大阪府私立幼稚園連盟 オンライン研修「保育再開に向けての衛生対応 ①基本編」	副園長 山口哲也
5	2020/6/11	一般社団法人大阪府私立幼稚園連盟 オンライン研修「保育再開に向けての衛生対応 ②環境・生活編」	副園長 山口哲也
6	2020/7/10	大阪府教育センター 令和2年度就学前人権教育研究協議会A	園長 山口 尚志
7	2020/8/23	大阪医科大学LDセンターweb講演会 「幼児期の発達障害のある子どもの理解と支援」	副園長 山口哲也
8	2020/8/29	大阪医科大学LDセンターweb講演会 「幼児期の子どもの遊びと身体作り」	園長 山口 尚志
9	2020/10/4	一般社団法人大阪府私立幼稚園連盟 設置者・園長対象オンライン配信研修	副園長 山口哲也
10	2020/10/22	大阪府教育庁主催 私立学校向けオンラインセミナー	園長 山口 尚志 副園長 山口哲也
11	2020/12/29	保育をどうしよう未来会議 「保護者や保育者を惹きつける工夫と園マネジメント」	副園長 山口哲也
12	2020/12/29	保育をどうしよう未来会議 「少子化時代に選ばれる園になるための経営のポイント」	副園長 山口哲也
13	2021/1/4	保育をどうしよう未来会議 「園発信！新たな地域を生み出す3つの条件」	副園長 山口哲也
14	2021/1/19	保育をどうしよう未来会議 「風通しの良い組織、等身大の保育を認め合う園内風土の作り方」	副園長 山口哲也
15	2021/1/24	保育をどうしよう未来会議 「いかに保護者に発信していく？～キッズリー活用事例発表会～」	副園長 山口哲也
16	2021/2/20	令和2年度大阪府幼児教育推進フォーラム(第2回) 「新型コロナウイルスと子どものストレス」	副園長 山口哲也
17	2021/2/28	令和2年度子どもの育ち見守りセンター主催 「子どものレジリエンスを育てるための関わりと工夫」	副園長 山口哲也

※休園期間中 教職員支援機構映像研修 受講詳細 1 (日時省略)

研修内容	研修者
No.1学校組織マネジメントⅠ(学校の内外環境の分析)	教諭 井上 桃香
No.2学校組織マネジメントⅡ(学校ビジョンの検討)	教諭 井上 桃香
No.3チーム学校の実践を目指して	教諭 井上 桃香
No.4新しい学習指導要領において期待される学び	教諭 石崎 佐和子 教諭 井上 桃香
No.5道徳教育	教諭 井上 桃香
No.6学校のビジョンと戦略	教諭 井上 桃香
No.7キャリア教育	教諭 長倉 絵梨華 教諭 井上 桃香
No.8学習指導要領	教諭 渡邊 奈緒 教諭 長倉 絵梨華 教諭 井上 桃香
No.12教育と法Ⅱ(生徒指導)	教諭 井上 桃香
No.13生徒指導	教諭 井上 桃香
No.14自殺予防	教諭 井上 桃香
No.15教育相談に関するマネジメントの推進	教諭 井上 桃香
No.16人材育成とコーチング	教諭 石崎 佐和子 教諭 井上 桃香
No.17特別支援教育の実践	副園長 山口 哲也 教諭 石崎 佐和子 教諭 大久保 由衣 教諭 安井 沙也佳 教諭 井上 桃香
No.18総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメント	教諭 井上 桃香
No.19学校組織マネジメントⅢ(人材育成)～教職員が育つ学校づくり～	教諭 石崎 佐和子 教諭 井上 桃香
No.20特別支援教育総論	副園長 山口 哲也 教諭 石崎 佐和子 教諭 安井 沙也佳 教諭 井上 桃香
No.21カリキュラム・マネジメントとは	教諭 井上 桃香
No.22生活安全	教諭 石崎 佐和子 教諭 甲斐 美由記 教諭 長倉 絵梨華 教諭 井上 桃香
No.23道徳科の授業の充実を図るために	教諭 井上 桃香
No.24「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ	教諭 井上 桃香

研修内容	研修者
No.25「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて	教諭 大木 友美子 教諭 井上 桃香
No.26災害安全	教諭 井上 桃香
No.27保健教育の基礎	教諭 井上 桃香
No.28幼児教育	副園長 山口 哲也 教諭 石崎 佐和子 教諭 吉田 千亜紀 教諭 石崎 佐和子 教諭 中野谷 早智 教諭 松本 加奈恵 教諭 甲斐 美由記 教諭 渡邊 奈緒 教諭 長倉 絵梨華 教諭 安井 沙也佳 教諭 大木 友美 教諭 井上 桃香 教諭 中野 志保
No.29学校全体で取り組む食育の進め方	教諭 石崎 佐和子 教諭 井上 桃香
No.30人権教育	教諭 井上 桃香
No.31教職員のメンタルヘルス・マネジメント	教諭 石崎 佐和子 教諭 井上 桃香
No.32学校安全(総論)	教諭 井上 桃香
No.33研修の企画・運営・評価	教諭 井上 桃香
No.35新学習指導要領を具現化した新教材の解説	教諭 吉田 千亜紀 教諭 大木 友美子
No.36外国人児童生徒等に対する日本語指導	教諭 渡邊 奈緒 教諭 井上 桃香
No.37学校教育の情報化	教諭 井上 桃香
No.38体力向上マネジメント	教諭 井上 桃香
No.40教育と法Ⅳ(学校の保健安全管理)	教諭 井上 桃香
No.43教育現場におけるコーチングコミュニケーション	教諭 石崎 佐和子 教諭 中野谷 早智 教諭 松本 加奈恵 教諭 井上 桃香
No.44リスクマネジメント ～学校の危機をいかに防ぐか～	教諭 井上 桃香
No.47不登校児童生徒の支援と教育相談	教諭 井上 桃香
No.48いじめ問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方	教諭 吉田 千亜紀 教諭 白波瀬 冴子 教諭 井上 桃香

※休園期間中 教職員支援機構映像研修 受講詳細 2 (日時省略)

研修内容	研修者
No.49地域の教育活性化とスクールリーダー	教諭 井上 桃香
No.50学校における働き方改革「先生が忙しすぎる」をあきらめない	副園長 山口 哲也 教諭 石崎 佐和子 教諭 中野谷 早智 教諭 松本 加奈恵
No.55児童虐待防止に向けた学校の取組	教諭 吉田 千亜紀 教諭 大久保 由衣
No.56いじめのとらえ方と予防	教諭 吉田 千亜紀 教諭 白波瀬 冴子 教諭 長倉 絵梨華
No.59働き方改革時代の管理職に求められるタイムマネジメント・スキル	副園長 山口 哲也 教諭 石崎 佐和子
No.63学習指導要領の読み解き方	教諭 吉田 千亜紀
No.64災害から考える リスク・マネジメント	教諭 井上 ゆり 教諭 渡邊 奈緒
No.65深い学びを実現するカリキュラム・マネジメント	教諭 井上 ゆり
No.66コーチングのスキルと活用 I	教諭 石崎 佐和子 教諭 井上 ゆり 教諭 中野谷 早智 教諭 甲斐 美由記 教諭 中野 志保
No.67発達の段階に応じた道徳科の指導	教諭 井上 ゆり 教諭 大久保 由衣
No.68道徳教育とカリキュラム・マネジメント	教諭 井上 ゆり
No.69コーチングのスキルと活用 II	教諭 石崎 佐和子 教諭 井上 ゆり 教諭 甲斐 美由記
No.70自閉症スペクトラム当事者からみた特別支援教育	副園長 山口 哲也 教諭 石崎 佐和子 教諭 井上 ゆり 教諭 吉田 千亜紀 教諭 大久保 由衣 教諭 大木 友美子 教諭 松本 加奈恵 教諭 甲斐 美由記 教諭 渡邊 奈緒 教諭 白波瀬 冴子 教諭 安井 沙也佳 教諭 中野 志保

研修内容	研修者
No.71事件や事故に遭遇したとき、学校はどう対応すればよいのか	教諭 井上 ゆり 教諭 大久保 由衣 教諭 大木 友美子 教諭 渡邊 奈緒
No.72学校組織力の向上「みんなの学校」をつくるために	教諭 井上 ゆり 教諭 松本 加奈恵 教諭 大橋 桃子 教諭 白波瀬 冴子
No.73重大事故発生時の対応 ～救命処置の観点から～	教諭 石崎 佐和子 教諭 井上 ゆり 教諭 大木 友美 教諭 大久保 由衣 教諭 渡邊 奈緒 教諭 白波瀬 冴子
No.74これからの学校におけるミドルリーダーシップ	教諭 石崎 佐和子 教諭 井上 ゆり 教諭 松本 加奈恵
No.75リーダーシップとマネジメント	教諭 石崎 佐和子 教諭 井上 ゆり 教諭 安井 沙也佳
No.76学校におけるICTを活用した学習場面	教諭 井上 ゆり
No.77多様な学びの支援 ～新学習指導要領「障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫」を実現するために～	教諭 石崎 佐和子 教諭 井上 ゆり 教諭 吉田 千亜紀 教諭 大久保 由衣 教諭 大木 友美子 教諭 安井 沙也佳
No.78病弱教育におけるICT活用	教諭 井上 ゆり
No.79コーチングのスキルと活用III ～不登校解決のためのリソースを探す～	教諭 石崎 佐和子 教諭 井上 ゆり 教諭 大木 友美子
No.80コーチングのスキルと活用IV ～円滑な保護者対応に生かす～	教諭 石崎 佐和子 教諭 井上 ゆり 教諭 吉田 千亜紀 教諭 中野谷 早智 教諭 松本 加奈恵 教諭 大橋 桃子 教諭 渡邊 奈緒 教諭 白波瀬 冴子 教諭 安井 沙也佳

第4節. 学校評価の総合的な評価結果

「教員における自己評価と詳細、並びに園長・副園長・主任における自己評価」の総合的な評価は「AまたはBまたはC」とし、管理者を含め、教員全員が共通認識した。

尚、「AまたはBまたはC」の評価は、教職員の経験年数によって評価項目の意識の差は起こりえるが、教員経験を積み重ねることによりその差異は解消されるものとみなし、総合的な評価を妥当なものとして認識するものである。

年度当初（2020年度4月）に「建学の精神」、加えて園長より「2020年度・教育指針」を基に、担任教諭が「学級経営案」、また、学年教諭間において、それぞれ「学年目標」を設定した。これにより、取りくむべき教育目標・運営目標について、全教職員が共通理解し指標とした。そして、教員それぞれが、学期末はもとより、日常的に自己評価を行い、取り組み状況を意識・確認したことにより、本園の教育内容が経常的に推進されているものと認識している。今後も継続して自己評価を行うことが重要であることを教員一同が共通理解し、努力研鑽に励む姿勢を位置づけることができた。

第5節. 今後取り組むべき課題

自己評価を行った各教員の総合判定として、記載の通り「学校評価・自己評価」の総合的なものとして公開している。自己評価については、教員個人としては、いわゆる達成度の低いと評価を今後は各項目の達成度をより高めるよう、具体的な対応やその具現化に向けて努力することを課題とした。現在の幼児を取り巻く環境の中で、人間関係「協同性＝友だち（子ども同士）とのトラブルや意見の違いを乗り越える力、さらに友だち（子ども）同士の活動や取り組み」の重要性を痛感するところである。そして、それぞれの思いに気づく環境や指導と援助のあり方を見直し、それを見守る教員の姿勢、指導力と援助法、更に継続して取りくめる環境や家庭との連携の在り方について研究に励むことを課題とした。

今後においては子ども子育て新制度や幼児教育無償化の研究を含め、より良い幼児教育を目指し、充実に向けての取り組みが必然と認識するところであり、また、働き方改革を推進し実践していくことが今後の課題である。続いて、コロナ禍における幼稚園教育の在り方、具体的には行事の運営について感染拡大予防策の基ついた教育活動を見直し、より充実したそれを目指すことを緊急の課題と位置付けた

第6節. 財務状況

2020年度において、当初予算に組み込まれていない「保健衛生費」の支出が増加となった。園児の消毒液、手洗のための石鹸、体温計等の購入に例年以上の支出となった。また、年度末(2021.03)に臨時休園期間中の保育料外の費目、通園バス利用費や給食費についての返金措置を実行したことにより、収入の減少となりこれに呼応する支出(バス関係の経費、給食仕入関係支出)も減少となった。併せて、予算組を行っていなかったが、通園バス車両入れ替えを年度末に行い、支出の増加となった。尚、予算組の「耐震補強工事」は予定通り実行し、年度内3月に完了した。

2020年度の財務状況については、監査法人・公認会計士より適正に運営されていると認められた。

第7節. 学校関係者の評価 9-1

学校関係者における意見・評価については、2021年3月にこれを依頼し、その意見・評価を求めた。下記にその意見内容を記し、これを公開する。

尚、学校関係者は、本園父母会役員並びに地域関係者あわせて14名を以て成し、意見・評価を依頼し、〇〇名から意見・評価を頂戴した。

また、昨年同様に本園理事会に報告する前段階として、本園理事1名（14名に含む）にこれを依頼した。学校関係者の名前はこれを非公開とする。

ご協力いただいた学校関係者諸氏に感謝申し上げます。

A委員 [No.1]

自己評価・学校評価を拝見いたしました。細かく項目が設定されており、その一つ一つを毎年しっかりと評価し、翌年の保育がより良くなるように努力されていることがよくわかり、頭が下がる思いでいっぱいです。昨年3月からのコロナウイルス感染症の流行による休園措置は園にとっても、私たち親子にとっても初めてのことであり、大変なスタートとなりました。

そのような中でも園長先生はじめ先生方が園児のために様々な工夫・対策を考えてくださり、とても感謝しております。行事の多くが中止となり、幼稚園に行くことがほとんどできませんでしたが、おたよりで現在の園の方針、考え方がわかりました。また、HPの園日誌で今日の様子を知ることができ、とても安心しました。

今年度も先行きが不透明で大変だと思いますが、引き続きご指導のほどよろしく願いいたします。

B委員 [No.2]

細かさに驚きながら全て拝見いたしました。日々、お世話になっている先生方はこういったことを配慮したり、意識をもって子ども達と接し、保育してくださっているのだと今更ながら気づきました。項目の中で前年より評価の上がった点、下がった点があり、恐らくコロナウイルスのせいだなと察することのできるものもありますが、分からなかった項目について、何故変化したのかがわかれば（資料など）より良いかと思いました。

ここまでの詳細さで自己評価、さらに公開されていることで幼稚園への信頼が深まるものとなりました。大変な作業だと思いますが、今後も続けていただきたいと強く思います。

C委員 [No.3]

教育目標、並びに2020年度コロナ禍においても園児の教育活動が実践できるよう努めたいとのこと、休園中の園長、副園長、全職員の映像研修には、即取り組める心意気、また、感染拡大予防策に基づいて教育活動を見直す姿勢には大変なことだが頑張してほしい。

教育自己評価においても、常に積極的に取り組み、異年齢児との交流、自然に交流できるような環境の構成をしている等、小学校の投稿犯の子どもをみていると如何に異年齢児との接し方、思いやり、配慮等大切なこと。それらを幼稚園から重きをおいて教育方針・指導計画に収められていることに拍手を送りたい。

第7節. 学校関係者の評価 9-2

D委員 [No.4]

今年度はコロナウイルスにより、休園や行事変更があり、その都度保護者への丁寧な説明が園からされ、幼稚園生活が保護者から見えにくい年だったが安心して通うことができました。

また、他の地域でのコロナ感染者の情報なども収集されていて、広い視野のもと様々な判断をしてくださっていました。上記のことにより幼稚園運営の自己評価「1-1」「2-2」に当てはまると思います。

教員自己評価のGのNo.34からは、個人懇談の際には自宅での様子を聞いてくださり、園での様子を伝えてくださり、コロナで保護者が幼稚園での様子がわからない分、しっかりとお話を聞け安心できました。また、子どもの成長や変化と一緒に喜んでいただけ、とても嬉しかったです。No.37より運動会の際にはたくさんの方が来園するため、門の開放時間も長いため、不審者対応にさすまたをすぐ手に取れるところに準備されていて、緊急事態に対応されていました。

青葉幼稚園では先生方が自分が受け持つクラスの児童以外の児童の名前も知ってくださっていて、ちょっとした擦り傷や気になることもバスの先生が伝えてくださり、園全体で情報(子どもたちの)を共有してくださっているのが良くわかり、子どもをお願いしている側からしてはとてもうれしく安心できます。

E委員 [No.5]

とても雰囲気の良い幼稚園だと思います。先生方がいつも笑顔で一生懸命ご指導くださっているので安心して子どもを預けることができると感じます。子ども達や保護者に対しても温かく接して下さり、いつも感謝しております。

F委員 [No.6]

この一年、本当に先生方の一生懸命を感じることができました。ステイホーム期間中、オンラインで研修を受けられている間に、YouTubeで動画を作成し、子ども達への笑顔を見せてくれたり、いつ登園してもいいように園内の準備をしてくださいました。

登園が始まってからはソーシャルディスタンスを守るため、密にならないよう配慮し、消毒・手洗いに何度も子ども達を連れて行ったりマスクで表情がわかりづらい中、子ども達の気持ちをよく見てくれました。色々なイベントが中止になり、少しでも子ども達の成長を知りたいと思う保護者の意見もできるかぎり取り入れて、可能な限り伝えてくださいました。色々なことができなかつたと思う一年でしたが、毎日幼稚園に通う子ども達は先生やみんなと過ごすということが本当に楽しかったのだと思います。

本当に一年間ありがとうございました。

G委員 [No.7]

2020年度はコロナ禍中、臨時休園の措置も執られたにも関わらず、園児達の心身の成長を一番に考えられた運営を行なっていただき、大変感謝しております。園での生活をなかなかみることが難しい最中でも、園日誌や担任先生方からの温かい報告や、感染対策を万全に期した中での行事を行っていただいたおかげで、安心して園に送り出すことができました。引き続きのご指導、よろしくお願い致します。

第7節. 学校関係者の評価 9-3

H委員 [No.8]

学校評価・自己評価について拝読致しました。休園期間中、先生方が様々な映像研修を受講され自己研鑽を積まれるなど、日々の幼児教育に活かしていただけること嬉しく思います。

コロナ禍で様々な制約があり、行事等は中止・縮小を余儀なくされましたが、衛生面を含め先生方の清掃、消毒作業に加え、手洗い・うがいなどの基本に忠実な感染症予防のご指導でインフルエンザ等感染症での学級閉鎖が今年度はないこと、感心致しました。また日々の園日誌の更新に加え、直接園に参観等が難しい状況のなか、YouTubeの活用等新たな試みを頂けたことにも感謝致します。

日々子供と真摯に向き合い、子供の自立(自律)を促し、見守りいただける環境を引き続きお願い致します。自己評価、幼稚園運営項目について細かく目標を設定の上、達成度に対し3段階評価及び取り組み状況を細かく記載されており、適切な評価であると思われま。

I委員 [No.9]

2020年度の学校評価・自己評価を一通り拝見させていただきました。

いずれの項目においても一定以上の高い水準を維持しているだけでなく、昨年度に達成することの叶わなかった内容については、確実に改善を図っておられることを見て取ることが出来ました。

また、各分類の細かな評価項目に対して、園長先生をはじめ幼稚園のすべての先生方が真摯に向き合っておられるであろうことが、自己評価が決して「A」だけでは無いところから感じる事ができ、このことはそのまま園への信頼に繋がっていると思えます。

新型コロナウイルスの影響がまだまだ続く中、ご苦労も絶えないかとは思いますが、2021年度も引き続きよろしくお願い致します。

J委員 [No.10]

学校評価拝見させて頂きました。まずは、先生方には子どもたちへの細やかな対応や、コロナの感染が起きないように色々な環境を整えてくださっていることに感謝いたします。

異年齢活動では、年下と関わる事が少ない我が子が、自分より年下の園児との関わり方を身をもって学べていたと思います。

行事が中止になることが多く、どうしても「交流」というのが難しい一年でしたが、子どもたちの安全を一番に考え、先生方の工夫のおかげで限られた中でも1年間楽しく過ごすことが出来ました。

青葉幼稚園で過ごす生活・行事が、子どもを成長させてくれるものだと思っております。

最後の年となりますが、新しい様式で試行錯誤になるかとは思いますが、先生方にはこれまでと同様に優しく成長を見守って頂けると嬉しいです。



第7節. 学校関係者の評価 9-4

K委員 [No.11]

いつも子供や保護者に寄り添った運営をしていただき、ありがとうございます。2020年度版の「自己評価・学校評価」を拝見致しました。毎年、教育活動の評価とフィードバックがされており、一企業として健全な改善活動に取り組まれている点が、子を預ける親として心強く感じました。こういった改善活動は必ずしも明確なゴールや正解がある訳ではない為、改善の継続には相応の困難もあろうかと思えます。またコロナ禍においてはこれまでにない難しい判断を迫られることもあると思えます。父母会にも状況を共有していただき、協力して乗り越えていきたいと考えております。今後も子供達が笑顔で安心して園生活をおくれるよう、弛まぬ改善活動をお願い致します。

L委員 [No.12]

行事ごとや園外研修などコロナ禍で実践の難しい項目以外は昨年よりも高評価になっているものが多いと感じました。常に気を使わなければならない緊張感の中、感染症対策をしっかりと行っただきながら、様々な工夫で子ども達の成長のために教育活動を行っていただいているのだということが伺えます。非常に安心でき、心強く思います。

また、評価方法や表記方法を変更することにより達成状況を明確にするなど、園一丸となってほんきで学校評価、自己評価に取り組んでおられることも分かります。今後も学校評価、自己評価についてこれまで通り、真摯に取り組んでいただきたいと望んでおります。





2020年度 学校法人山口学園くずは青葉幼稚園・学校評価

〒573-1102 枚方市北楠葉町38番1号

電話 072-857-8221 FAX 072-856-5944 <http://www.k-aoba.ed.jp/> Mail address info@k-aoba.ed.jp

2021年4月1日発行 本書は26ページを以て成し、「学校関係者の評価」以外の文責は園長・山口尚志であることを記す。